

第4回 東久留米市第4次長期総合計画会議要録

1．開催日時・場所

日時：平成21年5月20日（水）16時00分～18時00分

場所：東久留米市役所 庁議室

2．出席者（全21名）

委員：並木委員、沢田委員、篠原委員、間宮委員、富田委員、菊池委員、渋谷委員、
齋藤委員、松本委員、梅本委員、土屋委員、小山委員、生田委員、大塚委員、
野島委員

欠席：なし

事務局：企画経営室長、企画調整課長、企画調整課主任、(株)富士通総研2名

3．議事次第

（1）開会

（2）議題

第4次長期総合計画策定に向けて

（3）その他

4．配布資料

（1）資料1 第4回東久留米市長期総合計画基本構想審議会 次第

（2）資料2 中学生・高校生意見交換会の結果報告について

（3）資料3 ポスターセッション開催について

（4）資料4 第4次長期総合計画基礎調査報告書 別冊

（5）資料5 第3回東久留米市第4次長期総合計画審議会会議要録

5 . 主な質疑

(1) 開会

【会長】

- ・ 委員が全員出席しているので、審議会を進めさせて頂く。
- ・ 本日の議題は「第4次長期総合計画策定に向けて」であり、前回までの議論を受け、本日はより具体的に議論を進めたい。事務局から説明をお願いしたい。

(2) 議題

第4次長期総合計画に向けて

【事務局】

- 資料1 に即しての説明。

【会長】

- ・ 中学生・高生意見交換会に、出席された委員からそれぞれご意見・ご感想を頂きたい。

【委員】

- ・ 午前の部では、子どもたちは、最初なかなか発言しにくいようだったが、時間が経つにつれ、それぞれの立場で意見を出してくれたので、よかったと思う。

【委員】

- ・ 午前の部に出席していたのは全員男の子だったので、女の子の意見も欲しかったが、よかったと思う。

【委員】

- ・ 午後の部では、子ども達が来てくれるのか心配していたが、たくさん子ども達が嫌がらずに意見を出してくれたことに驚いた。
- ・ 来た子どもと話をしてみると、今の子どもはしっかりしているなあと思った。

【委員】

- ・ 子どもたちがインタビューに答えてくれるのかを心配していたが、ほとんど全員が回答してくれて、ありがたいと思った。
- ・ 私が担当した子ども達の意見では、自然を残して欲しいということ、スーパー、遊園地、デパートなどが欲しいという声があった。

【会長】

- ・私も午前、午後とも出席させて頂いたが、みなさんと同じように、最初は子ども達から十分に意見を聞けるか心配していた。特に午後の部では、児童館でバスケットやトランプをしたりしている中に行ったので、こちらの話を聞いてくれるのか心配だったが、杞憂に終わって、子ども達は一生懸命考えて回答してくれた。
- ・今回の中学生・高校生意見交換会のように、審議会の中に色々な要素を取り入れていくことは大切だと考えている。今後も機会があれば対応していきたいので、協力をお願いしたい。
- ・それでは基本構想について検討したい。検討の進め方として、前回確認したところでは、東久留米市の将来像について意見を出しながら、まとめていくということであった。
- ・事務局からは各種データについて資料を提出していただいている。今後はこのデータに基づいて検討したい。今回からはかなり具体的な話をしていかないと、スケジュールに間に合わなくなる。
- ・私からの提案だが、本日は各委員一人5分以内で、東久留米市の将来にとって一番大事だと考えるところをお話頂きたい。

【委員】

- ・前回の委員会では、企業の計画作りと同じように、将来像を決めてから具体的な施策を作るべきだと話したが、最初に将来像を決めると、それから議論が広がらないことも懸念される。頭の体操をしてから将来像を決める必要があると考え直した。
- ・将来についてだが、まず10年先のことは誰にもわからないということがある。その中で確実なこととして、一番目には高齢化が進展することがあげられる。人口推計によると市では、今後30%以上の高齢化率となるとのことである。
- ・今まで高齢者は病弱者として捉えられていた。市のその他の計画でも「高齢者・障害者」と書かれていて、まとめて支援が必要な弱者と捉えられている。
- ・これからは高齢者の捉え方を変える必要がある。80歳までは普通に生活できる人が大半である。これらの高齢者は自由時間がたっぷりある人である。今後はこの人達の力を借りることが重要ではないか。
- ・二番目は、財政推計にもあるように、このままでは毎年10億円のマイナスが出ることがある。行政にあれもこれもやってくれとお願いすることはできない。これからは市民ができることは市民がやる必要がある。
- ・三番目では地球温暖化防止が必要になることである。昨年の洞爺湖サミットでは二酸化炭素の削減目標が出た。地球温暖化防止のために、市役所ができることは限られているが、市民ができる取組みを進める必要がある。
- ・以上のように、将来像のキーワードは、高齢者対策、ボランティア精神の向上、地球温暖化対策の3つだとまとめてみた。

【委員】

- ・審議会の中にも各世代にわたる人がいる。自分は中間にあたる世代であり、中間の世代の立場から発言させていただく。
- ・基本構想の検討の進め方に関しては、委員がおっしゃったように、色々な意見の中からキーワードを探していくことが良いと思う。
- ・前回財政推計を見て、最初は少し意気消沈してしまったが、推計にきちんと基づ

けば、逆に堅実な議論ができるようになったと思う。

- ・ 今後は高齢化が進み、さらに将来人口は減少していく。10 年先のさらに先をみるためには、東久留米に将来住む人の視点を大切にすることが必要がある。将来東久留米市に住む人に郷土愛を持っていただくことが重要だと思う。この地域を愛していただけるようなまちづくり、仕組みづくりをしていきたいと思う。
- ・ 中学生のとき、東久留米の将来像として、自然が豊かで、家から駅までアスレチックのようにロープを伝っていけるようなまちを考えていた。車も電車も地下を通すことを考えていた。自然は東久留米市のエッセンスであり、河川は他市に負けない魅力である。自然を残すことをシステムとして構築する必要がある。今後 10 年間で自然を維持できる仕組み作りをして、さらに先の 10 年に安心して自然を守れるようにしていきたいと思う。
- ・ 一方、人がまちに住み続けるためには快適なインフラも必要である。近隣市に劣らないインフラ整備は必要だと思う。
- ・ 人のふれあいなどは変わらないものであり、シンボリックなお祭りや事業があり、大切にされ、継続していくことが必要だと思う。この点を考えると、東久留米には農業がある。農業を中心に地産地消を進めたい。市の農産物を活かした「ひがしグルメ」を進められればと考えている。

【委員】

- ・ 基本構想の進め方については、各委員が色々な意見を出し、それを分類して集約できればよいと考えている。
- ・ 検討にあたっては、財政を抜きにしてまちづくりは考えられないということが大前提である。例えば地方交付税の話が前回出ていた。東久留米市は地方交付税を常にもらっている市である。今後市が交付税をもらわない市にするのかどうか等は重要な課題である。
- ・ 自戒をこめて言うが、住民への行政サービスは、言い方は悪いが過剰になっているのではないと思う。右肩上がりに歳入が増えるのであればできるが、これから先は見込めない。では行政サービスをやめることはできるのかということである。本当に行政でやるべきサービスと、市民と行政が協力していくこと、市民が自分でやるべきことの切り分けをすることが課題である。
- ・ 高齢者に対する扶助がこれからさらに発生する。しかし財源はどうするのか。また担税世代は減少する。高齢者にも働いてもらう仕組みづくりを国としてしなくてはならない。今後 10 年間は、福祉の分野でこれまで 100% 行政がみていたものについて、担い手の切り分けをするべきだと思う。このことを構想で考えるべきだと思う。

【委員】

- ・ 若い人、子育て世代、高齢者に共通しているのは、皆が大なり小なり不安を持っているということである。例えば 20 代くらいの青年は就職できるかどうか、働いている世代の半数は非正規雇用であり、今後結婚できるかどうか、また子育て世代では子育ての孤立、また少し上の世代では親子の関係や、高齢者では健康の問題等で不安がある。食品一つとっても、食品の安全について不安に思ったりする。
- ・ これらの不安に対してどのように答えていくのか。一つのまちで対応できることではないという意見もあるだろうが、そうではないと思う。災害に遭ったり、高

齢になったりしても、不安の反対で、安心できるまちを作るべきである。ふれあいという言葉があるが、ふれあいとは孤独の反対で、ふれあいによって安心できるまちをどのように作るのかが課題だと思う。

- ・環境問題もそうである。市のレベルでは、市に残った雑木林や川などを守っていくことが、地球全体の環境を守る中で我々が出来ることだと思う。
- ・キーワード的なことを言えば安心だと思う。

【会長】

- ・安心について具体的な案はあるか。

【委員】

- ・孤独ではないまちということが安心に繋がると思う。

【委員】

- ・将来像なので、夢が持てるものを掲げたい。市に住んでいて市の目指すところが分かるような構想を掲げたい。自分が大切にされていることを実感できるようなまちが具体的に示されていれば、他人とともに自分が大切にされていることがわかると考えている。

【会長】

- ・具体的にはどのようなことが考えられるか。

【委員】

- ・具体的には、子どもの意見が尊重され、子どもがまちづくりに参加できる仕組みづくりや、高齢者になってもまちづくりの最前線にいるような仕組みづくりである。
- ・東久留米市では他市と比較して、要介護認定率が少ないということがキーワードになりそうである。それから女性の社会参画を進めること、夜間だけしかないサラリーマンも参加できるような仕組みを今後 10 年間で作りたい。
- ・そのためには中学校区くらいで地域を区切り、地域コミュニティを作っていくことが必要なのではないか。
- ・水と緑については、市の誇るべき財産として、守りつつ、シティセールスとしてアピールしていく必要がある。財政が乏しいので、どうやって守るか、あるいは増やしていくのかを構想で考えたい。

【委員】

- ・将来像を検討するにあたり、人口、財政、環境に注目していた。委員がおっしゃったように、何をするにもお金がかかることを考えると、夢や希望の前に、10 年後に果たして東久留米市が存続しているのかということを考えてしまう。
- ・今後、生産年齢人口が減るのであれば、行政サービスについては、取捨選択をして、何をすべきなのかを絞らないと、厳しいのではないかなと思う。
- ・市の財産は水と緑であるということで、私もそう思うが、実はその水と緑は私有地である。生産緑地を守るためには市が買い取る必要があり大変にお金がかかる。緑地を守るためには、他のことは我慢してもらうということまで言えるのかどうか。

- ・これからのまちづくりは市民がやる必要があり、行政、職員に頼るのではなく、市民力を掘り出していく必要がある。
- ・例えば東久留米では子育てというような売りを作ってもよいし、教育でもいい。水と緑だけではなく、新しいものに舵を切るということもあってよいのではないか。

【委員】

- ・少子化対策が大切になってくるのではないかと。現在市では保育園が充実していないのではないかと。設備状況には地域差もあり、滝山周辺には施設があるようだが駅周辺が不足している。民間の託児所を増やすべきではないかと考えている。また妊婦さんの健診にはお金がかかるが、若い家庭ではそのお金が負担になっているようである。
- ・環境問題については、費用をかけなくても、市民が取り組めるものに向かって努力していくべきだと思う。他市ではゴミの有料化が進んでいるが、他市のように有料化すればゴミも減るし、廃油のリサイクルなどにも市全体で取り組めればよい。
- ・また観光などの窓口があればよいのではないかと。また街路樹のカリンやヤマモモなどの利用も考えられる。
- ・中学生・高校生意見交換会でも大きい公園が欲しいという意見があったが、六仙公園などの公園整備を進めたい。
- ・盆踊りなどは残すべき文化ではないか。

【委員】

- ・過去の資料、人口、財政フレームを拝見した。市の中にも様々な考え方を持っている人がおり、一人ひとりに意見を聞くわけにはいかない。
- ・高齢化や環境の問題については市レベルでは解決が難しい。市としてのまちづくりの考え方としては、出た意見の中からキーワードを検討することがよいのではないかと。
- ・検討の進め方については、まず全体的な方向性が決まらなければ、個々の問題については議論できないと考えている。

【委員】

- ・将来像を検討するに当たっての課題を3つ考えている。
- ・一つ目は財政に関して、10年後にどうなるかという点である。税収を上げていることも現実問題として考えるべきである。その上で、福祉や環境について取り組むべきである。
- ・二つ目はやはり環境である。水と緑とふれあいは、市の財産であり、守っていく必要がある。例えば、宅地の開発については、開発要綱というものがあり、開発する面積のうち3%は緑地を確保せよという規定があるが、私は、このまちの緑地を守るためにはもっと厳しく、3%以上と定めても良いと思う。
- ・三つ目は市民の責任についてである。市民一人ひとりが責任を持ってこのまちをどうしたいのかというビジョンを持つべきである。ビジョンを持っていただけのような機会を設けていくことが必要ではないか。また前提として、まちを愛する気持ちが必要である。

【委員】

- ・東久留米市と水と緑は切っても切れないと思う。落合川周辺では、住人の責任として、川が常にきれいであるように注意するという市民意識が育ってきている。そういう意識が市全体に育っていけばいいと思う。
- ・行政まかせではなく自分達でも担う必要がある。
- ・高齢者が買い物に行くのにも地域にお店がないという状況である。まちが活性化するためには、個々のお店が商売できる形ができればいいと思っている。
- ・今、地域には色々な活動をしている組織がたくさんある。そういう活動を活かしていけるまちになると良いと思う。
- ・高齢者は、まちづくりに活用できる知識を持っているので、高齢者を活かしていける仕組みづくりを進め、高齢者の生きがい作りなども、基本構想の中で強く出していければと思っている。
- ・水と緑は市のシンボルにしていただければと思っている。

【委員】

- ・80歳を超えて、高齢の問題を切実に感じている。高齢者にも暮らしやすい、また高齢者だけでなく、全ての住民が安心安全で暮らせるまちづくりは一つの願いである。
- ・高齢者は病弱で支えられる立場というイメージがある。実際そうなるのだが、しかし出来る限り支える側になるような生きがいを見つけていかなければならないと思う。
- ・支える側になるとは、具体的にはどういうことなのかを老人クラブの連合会で考え、各小学校でボランティアをはじめている。この活動は明らかに子どもや保護者それぞれの地域にあったようなやり方を進めている。
- ・先立っても研修会をして、80名くらいでボランティアの進め方について検討した。防犯だけではなく、交通安全についても、今後とも行政と一緒にやることに生きがいを見出している。
- ・小学生が家に帰るときに見守りをしていると、家の前で待っている保護者と目が合って、お礼を言われたりする。そのようなときに一番、保護者にも学校にも喜ばれる活動だということが分かる。
- ・活動の前提になるのは健康である。こういうことを一般の高齢者にも広めたいと思っている。そして互いに協力できればと思っている。
- ・高齢になって、ひとりで孤独死する例も残念ながらある。もっと見守り活動などを充実させてもいいのではないかなと思う。安心安全な暮らしの中では孤独死はあってはならないことである。財政が厳しいなら、施設ではなくで、心のつながりの中でもって助け合えることがあるのではないかな。
- ・例えばわくわく健康プラザに行くには駅前で乗り換えなくてはならない。高齢者も子育て世帯も乗り換えは大変である。お金はかかるが、循環バスのようなものも、将来的にはやはり必要になるのではないかな。
- ・国や都の指示を待つばかりではなく、市から先進的な取組みを発信してもいいのではないかな。

【委員】

- ・今後の高齢社会とは、我々が今まで経験したことのない社会である。高齢社会の中で、どのように子どもを育てていくのかが、まちづくりの課題になるのかと思

う。

- ・東久留米市は、農業が基盤になって発展してきたまちだと思うのだが、農業を継承していくこと、自然を活かしつつ、自然に活かされるまちであって欲しい。
- ・ボランティア精神など、市民が力を出し合いながら、生きていけるまちが理想なのかと思う。
- ・子どもの健全成長について検討する会に出席しているが、そこでは市の将来像として、お互いにあいさつができるまちということを考えている。

【委員】

- ・本審議会は基本構想を検討する会だと理解している。そして基本構想とは理念であると考えている。理念が財政をリードするような形で、基本構想は財政等のあり方を方向付けるものだと思う。
- ・流行りの言葉ではブランド作りというものがある。大切なのはまちづくりであり、土地に対する郷土愛や愛着心であると思う。これをどのように向上していくかということを検討していく場がこの審議会であると思う。
- ・水と緑の大切さについては満場一致で賛成であると思う。一方自然というと色々なものがある。市では生産緑地が多い。我々が言う東久留米市の豊かな自然とは東京都としては緑が多い、里の景色だと思う。中学生・高校生の意見にもあった自然とは里の景色のことだと思う。
- ・東久留米に帰るとほっとするが、のんびりしているとか変わらないことなどがあるからだと思う。今はスローライフなどが流行る時代である。変えることは意外に簡単なことだと思う。しかし今あるものを残すことは難しい。北口の開発問題についても、つまらない問題だと取られがちだが、まちなみを残すことが、重要なのではないか。
- ・地場産業ということがあるが、例えば、有名な長野の道の駅や茅ヶ崎のわいわい市場などのような地場産業を市は作ろうと思えば作れるものである。

【委員】

- ・そうそうたるメンバーの前で話すということはあまり経験がないので、家族で考えてきた結果を読ませていただく。
- ・市の将来像として重要な点としては、市の価値を高め、上質な、終の棲家となる住宅の形成と、そのための施策があげられると思う。心を贅沢にしてくれるような、生活がしやすいまち。例えば落合川を見ると、今の時期、子どもがゴーグルをして泳いでいるが、自分が子どものときには川で遊ぶことなど考えられなかったもので、その光景を見ると思わず微笑んでしまう。
- ・市全体をどのようなまちにしたいのかを地域ごとに明確にして、差別化を図ることが必要なのではないか。どの施策に力を入れるのか、ターゲットの絞りこみも必要なのではないか。
- ・予算が足りない中で、万遍なく施策を実施することは、一つ一つの施策が力不足になってしまうので、重点的な施策を決めることが必要である。
- ・六仙公園の近くに住んでいるが、ここは緑も商業地区もある地区で、充実している地区だと思う。この地区のように近くで買い物のすることができれば、例えば徒歩や自転車でスーパーにいければ、CO₂の削減にもつながる。
- ・ドックランがあり、赤ちゃんが入れるような水場があるなど、近隣の中でも他にはないような公園を作っていくことに、住民が参画できる仕組みづくりが必要なの

のではない。そのためには土地の用途変更が必要になると思うが、特色のある公園づくりのために都に働きかけ、地域のボランティアや住民主導による公園づくりができればと考えている。

- ・まちの将来として、家族が一日市の中で過ごせるまちを考えてみた。例えば中央町については、家族連れが自転車で公園に来て、午前中は公園の近隣の畑で収穫や種まきの体験をする。お昼には、柳久保小麦を使ったうどん屋やパン屋でお昼を食べる。地場産の食材を使った食があれば、他の地域からも人が来るのではない。午後、公園では子どもが木登りや、犬と一緒に遊ぶことができ、その間、お母さんは近くで買いものをする。そうすれば家族が、一日中東久留米市内で過ごすことができる。

【会長】

- ・勝手ながら5分間という制限を決めてみた。今、委員の皆さんの意見を聞いて、気がついた点について問いかけをしたい。
- ・多くの委員が水と緑について言及しており、水と緑は基本構想から外せないという意見である。しかし水と緑は過去から言われていることであり今後も謳い続けるのかどうか。今後10年のことを考えると、具体的に何をするのか。また緑とはどの緑なのか。緑といったときに、みなさん、生産緑地を含めて考えていると思う。となると都市型農業を市としてはどう考えるのかということが課題になる。
- ・町田市では、かつては、住宅近くに畑があると土埃やにおいがいやだと、住民と農家に対立していた。しかし最近風潮がかわり、新鮮な野菜が買えるということで農地の評価が高まっている。市として生産緑地をどのように位置づけるのか。
- ・財政については、税収増を考えることが必要である。市の財政をみると、固定資産税が他市より低い。これは市内に生産緑地が多いことの裏返しである。では農地に宅地並みの課税をするのか。私は、それは逆だと思っている。例えば横浜市でも生産緑地化を進めており、その上で農地の維持という視点から、住民と農業者との折り合いを進めている。
- ・地場産業を活性化することで地域にはお金が落ちる。また農業者も農業以外のことをすれば収入になる。
- ・市民との協働を進めることはもっともであるが、高齢者、子育て支援は社会全体で行うことが現在の趨勢である。市が削減するとしても削減できる部分は実はあまりない。市は人件費の削減をかなり行っているが、これは大変な努力であったと思う。
- ・市民参加ということはまちづくりにおいてよく言及される。しかし避けがたい事実として、昼間まちづくり活動に参加できる人は専業主婦か高齢者しかいないという点がある。この部分をどう打開するのが問題である。これは東久留米市だけではなく、他市でも悩んでいる部分である。
- ・出来るだけ具体的な提案をということで意見をお願いしたが、今まで出た意見の中の抽象的なことについて、他の方から具体的な案があることもある。残りの時間で、よい部分を指摘するブレインストーミングをしてみたい。

【委員】

- ・皆さんが水と緑を重要視しているのはよくわかる。しかし今まで東久留米市は30年間ずっと水と緑であった。今後の10年間も水と緑でよいのか。例えば、水と緑を基本構想から格上げして、都市宣言にするのはどうか。不動なものだとして

掲げる方法もあるのではないか。

- ・水と緑は重要なのですが、それでは市民が水に簡単に触れられる場所があるのかという、市内の1、2箇所ではないかと思う。もっと全市域で、子どもが水で遊べるようにしたらよいのではないか。
- ・韓国の首都ソウルに清溪川（チョンゲチョン）という川があって、生活排水等でドブ川となっていたため、暗渠化して、上には高速道路を通していた。しかし今の大統領のときに高速道路を撤去し、土を掘り起こして水が流れるようにし、市民が憩える川にした。現在では清溪川は全世界のまちづくりの視察地で、現在韓国で開かれた会議に出席中の石原都知事も訪問しているとのことである。
- ・水と緑は大事だと思うので、清溪川のように、もっと水辺で親しめるようにできればよいと思っている。

【梅本委員】

- ・今、落合川周辺では、道の整備をしているのだが、何ヵ所か水辺に憩える場所を作れるようにしている。
- ・落合川では20人くらいいつも鳥の写真を撮りに来ている。草を刈ったりするのは地域の人がボランティアでしている。子どもは学校から帰ってきて、靴のまま川に入って遊んでいる。もう少し手を加えたら、もっとよくなる場所があるので、ぜひ整備を進めたいと考えている。
- ・委員の話にあったように、中央町は河川ができて盛り上がっている。今まで何もなかったところが潤っているところであり、これからは地域の祭りもできるのではないかと考えている。

【土屋委員】

- ・黒目川も整備をしている。市民が親しめるように環境が変わってきている。しかしながら、途中で生活排水が川に入っているところがある。そういうところがあると、水と緑といってもちょっと考えてしまう。

【篠原委員】

- ・湧水の保全について、都市宣言にするという話はいいアイデアだと思う。来年はちょうど市制施行40周年である。過去節目ごとに都市宣言をしているので、せっかくだから試みたらよいのではないか。
- ・落合川の水辺の柵を取り払うことについては、過去に色々な議論があり、柵を取り払うのには大変だった。
- ・市民参加ということがあるが、本来は市民が市政の中心である。しかし市民から見ると行政が勝手に決めているように見える。住民が参加するためには、重要な場面で市民が判断しているということが必要なのではないか。

【会長】

- ・今回はもっと具体的に検討したいことがある。第3次計画ではまちの将来像が「水と緑とふれあいのまち“東久留米”」で、将来像の下に「“人”を大切に作るまちづくり」、その下に5つの基本目標がある。
- ・本日出た意見は、大体この枠組みのどこかに当てはまる。今回、新しい切り口を見せないと何のための審議会かということになってしまう。そこで、新しい切り口にはどのようなことがあるか、みなさんに頭を使ってきてもらいたい。

- ・ それでは、次の議題について事務局から説明をお願いしたい。

【企画調整課長】

- 資料3に即しての説明。

【会長】

- ・ ポスターセッションについて、ご協力頂ける方がいましたら、お願いしたいと思う。

【企画調整課長】

- ・ 本日、基礎調査報告書 別冊を配布させていただいている。審議会の資料で、この別冊に差し入れるものがあれば、追加が可能なので、ご利用いただきたいと思う。
- ・ 基礎調査報告書については若干修正がありますので、ご協力をお願いしたい。
- ・ 次回第5回審議会の日程については、議会が終わった6月24日（水）19：00から開催させて頂きたいと思う。

【会長】

- ・ 本日予定していた議題は全て終了とする。
- ・ 今日出た意見については事務局がまとめて、皆さんにお示しするものとする。

【間宮委員】

- ・ ポスターセッションについてだが、公共施設のない野火止や小山などの、市北西部についても何かの働きかけをご検討いただければと思う。こういう地域についても住民の声を聞いていただければと思う。

【会長】

- ・ では本日は以上とする。

以上